

パモジヤ



2005年10月号

~未来のきりん探しの旅に出よう~

今月の INDEX

- 1) タンザニア援助のツボ「タンザニアの水事情」
- 2) 耳より！ JICA 研修情報
- 3) 事務所からのお知らせ
- 4) 特集： 2005 年度新規採用職員 OJT

1) タンザニア援助のツボ： タンザニアの水事情

今回はタンザニアの水事情について、現在タンザニア水省で地下水開発と地方給水に関して指導をされている藤原専門家に伺った話をお届けします。

タンザニアの水行政について

水行政の役割を一言で言うと『衛生な水を安定的に届けること』です。



『水運びの様子』

タンザニアでは、1991年に National Water Policy が制定されるまでは、給水施設の建設と維持管理はすべて政府が管理していました。しかし91年に制定されたこの政策によって、法律上、給水施設の維持管理はすべて受益者(住民)と地方行政庁が担うという役割分担へと変化しました。しかしながらこうした政府による政策の変化が住民の間に行き渡っていたわけではなく、特に都市部から遠い農村地域では給水事業の役割分担がはっきりしない状況の中で、時間の経過とともに多くの給水施設が故障・老朽化していきました。

1991/92年実施のタンザニア統計局の調査によると乾期における農村地域での水源までの距離が平均1.5kmであったのが、2000/01年の調査によると1.7kmと悪化していたのは、そうした状況が原因のひとつであると考えられます。

井戸の種類・必要経費

2000/01年の統計局の家計調査によると、タンザニアでは34.5%の人が飲料水を井戸に頼っています。一般的に井戸はその深さによって2つに区別し、深さ10m以下のものを浅井戸、深さ30mより深いものを深井戸と呼びます。(10mから30mの深さのものは浅井戸と呼んだり深井戸と呼んだり、規模や仕組みによってまちまちです。)浅井戸の多くは手掘り井戸で、直径1 - 1.5m、深さは1mのものから8m(手掘りの場合8mが限界)のものまで様々です。地表に溜まった雨水を掘り当てる井戸なので、乾期になると枯れていきます。もうひとつの浅井戸として、井戸の中に水をくみ上げるための揚水管(Tube)を通してのものもあります。



深井戸は通常深さ 30m 以上の地下水を掘り当てるものを指し、大抵の場合ボーリングマシンを使用して掘る大規模なものです(Drilled Well, Tube Well と呼ばれることもあります)。国内のボーリング会社には、ダルエスサラームに本部を置き、ドドマ、ムベヤ、アルーシャ等に支部を持つ DDCA(Drilling and Dam Construction Agency)という半官半民の公団があります。DDCA は、水省の有する 8 台のボーリングマシンを用いて 1m 当たり 100,000Tsh、つまり 50m の深さの穴を 5,000,000Tsh の値段で掘ってくれます。

また、地下水をくみ上げるためのポンプにも、手動式のハンドポンプのものと電動式ポンプとの 2 タイプがあります。ハンドポンプの設置には約 6 万円強掛かりますが、地下水の水位が 50m よりも深くなると重すぎてハンドポンプではくみ上げられません。一方電動式ポンプの場合、くみ上げられる水の容量と井戸の深さによって値段は大きく変わりますが、40 - 500 万円の費用が掛かるのと同時に電気代、電気のない地域では燃料代(ディーゼル)もしくはソーラーパネル設置費が必要となります。

井戸のメンテナンス

井戸の種類によってメンテナンスの仕方は異なりますが、ポンプや揚水管を用いている深井戸の場合、まずポンプ、揚水管の修理・交換が必要となります。平均寿命は一般にポンプが 12 - 16 年、揚水管は材質と水質にもよりますが 10 - 60 年といわれています。また、2 年に 1 度位の頻度で井戸の底にたまる砂の除去作業も必要となります。この砂の除去作業にはそのための洗浄機材が必要です。

こうしたメンテナンスを定期的に行うためには井戸を使用している住民がメンテナンスのための費用を積み立てていく必要があります。従って、給水施設を建設する際には住民の井戸維持管理費負担能力に見合った規模の施設を選定することが大変重要となります。平均的な農村の家庭にとって井戸の維持管理費に費やせるお金は 1 ヶ月あたり 500 - 1000Tsh(50 円 - 100 円位)である場合が多いようです。

地下水の特徴

タンザニアの地下水にはこれといった画一的な特徴はありません。逆に言うと、国土が広いので、地層や土壌の種類、水脈の水位の高さに関して、実にバリエーション豊かということです。水質に関しては健康に有害な硫酸イオン、マンガン、フッ素を含んでいる可能性があるため、慎重に検査をする必要があります。地形から判断して、水脈が豊富にあるのがイリンガ州・ムベヤ州・ザンジバル島です。

水関連の統計について

策定されたばかりの 2005 年 NSGRP(National Strategy for Growth and Reduction of Poverty)の中では、農村地域において清潔で安全な水の収集に 30 分以内でのアクセスを持つ人口の割合が 53% (2003)から、2009/10 には 65%まで増やすことを目標としています。しかしこうした統計などに出てくる水関連の数字は、例えば政府が設定した『蛇口一個を 250 人が使用している』という想定をもとに計算していることが多く、そもそもの 53%(2003)という数字の信憑性も低いのです(現実的な割合は 20%程度ではないかと藤原専門家は言っています)。つまり、ある地域に存在する蛇口の数さえ、単純に蛇口の数(機能しているかどうかに関わらず) × 250(人)として集計している場合が多いことから、現実に即していない統計が生まれているのです。こうした現状の中で藤原専門家はまずはタンザニア全地域の給水施設の『実態』を知ることが何より重要であると考え、水省との協議のもとに現在、全州 / 全県にいる水担当者に対して各担当地域内の給水施設状況の調査、取りまとめを促しています。全州の給水施設の『実態』データを集めるためには今後も忍耐強い働きかけが必要であるということです。



JICA の事業

現在タンザニア本土には JICA 関連の水分野事業が個別専門家派遣事業以外に 3 つあります。そのうちの 2 つ、「ムワンザ・マラ州水供給計画調査」と「首都圏周辺地域水供給計画調査」は現在計画策定段階にあり、対象地域で今後どのような給水支援を行うと良いのか、見定める調査を行っています。もう 1 つ、日本政府の無償資金協力による「南部村落給水事業」は、リンディ・ムトワラ州での井戸を中心とした給水施設建設を行っています。

今回お話を伺った藤原専門家はこれら 3 つの事業の調整も含め、ウブンゴにある水省を拠点として 2006 年 3 月中旬まで指導活動を継続されます。ご趣味の弓道を通してマサイ族の友人も作られ、時間があるときは共に弓を射って楽しんでいるとのことでした。



(藤原専門家、特集記事へのご協力有難うございました！)

「ムトワラでの井戸掘り作業」

2) 耳より！ JICA 研修情報

現時点でタンザニア政府に候補者の募集をかけている、日本で行われる研修コースをリストアップしますので、カウンターパートに研修の機会を与える場になれば幸いです。なお、紙面の関係上、研修コース名と研修期間、応募締め切り日のみを記載しますので、詳細な情報が必要な方は事務所の加藤もしくはムソフェまでご連絡ください。以下のコース以外でも研修に関して質問がある場合には、いつでもどうぞ。なお、研修に応募するためには、履歴書、健康診断書およびカントリーレポートの作成、その後人事院のスタンプをもらう等多くの作業と時間が要求されます。ですからなるべく余裕を持って連絡をいただくと助かります。

なお、留意点は以下のとおりです。

- ・ どのコースも基本的にはタンザニア政府の人が対象です(民間会社で働く人は対象になりません。一部のコースは NGO の参加も OK なものもあります)
- ・ どのコースにも応募にあたっての資格要件があります。この要件を満たさないと応募することはできません(特に年齢制限には要注意)。
- ・ どのコースも 1 名(もしくは 2 名)の枠に対し、4~5 名程度の応募がありますので、応募をしたからといって、受かる保証はありませんので、ご注意ください。

現在募集中のコース(コース名、研修期間、応募締め切り日の順)

- | | |
|--|------------------|
| ・ National Tuberculosis Programme Management | 1/10-2/25, 10/17 |
| ・ Medical Staff Training Course | 1/9-3/25, 10/18 |
| ・ Seminar for Local Government Officer on Private Sector Development | 1/31-3/4, 11/9 |
| ・ Promotion of SME | 1/10-3/19, 11/3 |

帰国研修員同窓会活動報告(ザンジバル清掃活動)

9 月 3 日(土)、JICA 帰国研修員同窓会(JATA)による、今年度最初の活動が行われました。活動内容は「ザンジバル清掃、環境保護キャンペーン」ということで、その名のとおりザンジバルにおいて地域住民とともに環境問題における理解を深め、清掃活動を行い、また環境問題をテーマに掲げた各種機関を視察するというものでした。ザンジバル市助役をはじめとした多くの参加者が、JATA メンバーとともに各地



域のゴミ収集をした今回の活動を通し、参加者だけにとどまらず、地域住民に対する環境保護啓蒙活動としても有意義なものとなりました。



「清掃活動の様子」

また、今までのJATAの活動は、タンザニア本土が主であったのに対し、今回は本土の帰国研修員とザンジバルの帰国研修員との協力により実現したという点にも大きな意味があり、JATAネットワークの広がりを感じることができました。

JATAでは、今後タンザニアの人々を対象にした活動だけでなく、タンザニア在住の日本人の方々も取り込んだ活動を実施することを計画しています。JATAの活動を通じた日本とタンザニアのネットワークの強化、拡大が期待されます。

3) 事務所からのお知らせ

今月の危機管理上の特記事項

老川所員

～いよいよ総選挙投票日、10月30日です～

8月21日に選挙キャンペーンが開始されて1ヶ月以上が経過しましたが、最近になり政党支持者間の衝突のニュースが各地で頻繁に聞かれるようになり、実際に負傷者も出るなど、10月30日の投票に向けて確実に緊張が高まっております。先月号、先々月号と総選挙に関する一般的な注意事項とザンジバルへの渡航制限などをお知らせいたしました。今回はいよいよ投票日まで1ヶ月を切った時期ということで、想定されている投票日の流れとそれに伴う注意事項を中心にご案内したいと思います。

1. 投票日の流れ

(1) 今回の選挙の対象は？

今回の選挙の対象となるのは、本土では Union President (連合共和国大統領)、Member of Parliament (国会議員)、各自治体の Councilor の3種類となり、Zanzibar ではこれに President of Zanzibar, Member of House of Representative (ザンジバル議会議員) が加わり5種類となります。

(2) 投票はどうやって行われるの？

事前に選挙人登録 (Permanent Voters Registration) を行った有権者のみが投票権を持つこととなり、投票日当日は選挙登録の証明である ID カードを持参して、各選挙区において定められた投票所にて投票を行います。投票時間は、現時点では朝7:00から夕方4:00までとされており、投票所は通常政府が所有する学校や病院 (Dispensary) となります (有権者登録の場所と同じ場所となります)。投票所には「Polling Officer (PO)」が駐在しており、投票者の ID カードを登録名簿と照合した上で、問題なければ投票用紙が渡されます。有権者は、記入した投票用紙を投票箱に入れて投票完了ですが、1人の有権者が複数回投票することを防ぐために、投票直後に親指を黒いインクに浸す (投票を終えた証) 必要があります。このように、登録の確認 投票用紙の手交 記入・投票 インク浸し、という段階的な手続きが必要となるため、前回の選挙でも各投票所には長蛇の列ができていたそうです。

(3) 開票作業

投票時間終了後、大統領選挙以外の投票については、各投票所にて開票作業が行われます (大統領選挙分については、各州の Regional Polling Officer が取りまとめて、国家選挙委員会 (NEC) に提出します)。開票結果は各投票所にて張り出され、その後修正ができないようになります。この各投票所での開票結果と大統領選挙の結果をもって、最終的な総選挙結果が判明するわけですが、この開票から最終結果判明に係る時間については、現時点でははっきりとは分かっておりません。(過去の例から考えて、早ければ24時間以内とも言われていますが事前の予測は難しい部分でもあります。)



2. 投票日及びその前後の注意事項

投票日及びその前後については、選挙の緊張がピークに達します。ちょっとしたことがきっかけで混乱に発展する危険性があることを念頭に入れていただき、以下の注意事項を遵守いただければと思います。

(1) 不要不急の外出は避け、これまで同様政治的な集会やデモには決して近寄らないようにしてください。直接巻き込まれなくても、近隣にいて投石に遭う、交通事故に巻き込まれるなど2次の被害への遭遇の可能性があります。

(2) 投票日前後の国内移動は可能な限り控えてください。(業務等の関係で国内移動を予定する場合には、早めに JICA 事務所と協議してその適否を確認してください。実際に移動をする場合は行程の詳細と確実な連絡先を事務所に連絡し、移動行程に変更が生じた場合も必ず連絡してください。)

(3) 電話、携帯電話、無線等、緊急時連絡体制を確認してください。(電源確保及び作動確認)

(4) 万一外出できない事態が生じた場合に備えて、非常用食料、水、調理用燃料、懐中電灯等の生活必需品を1週間分は備蓄してください。緊急事態の際の精神的なゆとりにもなります。

(5) 車を持っている方は、投票日前には燃料を満タンにしておいてください。

(6) 事前に通勤経路や自宅付近の投票所の場所を確認し、投票日には近づかないようにしてください。(投票所は通常学校や病院等の公共施設で、「KITUO CHA KUPIGA KURA(投票所)」というサインが掲げられていることが多いとのことです。)

(7) 治安情報や政治集会等に関する情報を友人や隣人から聞いた場合は、必要に応じて JICA 事務所とも情報を共有するようにしてください。事務所としても最大限の情報提供を心がけておりますが、新聞情報、ニュース、職場の同僚や家で働いているタンザニア人の噂話などへの関心はこの機会に是非とも高めてください。また、万一何らかの事件が起きた場合、必ず JICA 事務所に電話等で連絡してください。

< 8月・9月の犯罪被害報告 >

8/14 午後 4時	ドドマ	「子どもを助けて欲しい」と頼まれ岩山に行ったが、大勢の男に囲まれ、ナイフを見せられ金を要求された。大声で助けを求めたところ男達は逃げに行った。被害としては、かぶっていた帽子をひたされた。	声を掛けられたからといって人気のないところに単独では行かないこと。ナイフを突きつけられた場合は無抵抗に徹すること。
8/21 午後 11時	ソングア	ダラダラを降りた後、バッグのチャックが開いていることに気づき、中味を確認したところ、携帯電話が紛失していた。	人の多い場所やダラダラ内ではバッグは体の前に持ち、目を離さないこと。
8/27 午後 3時	イリンガ	TAZARA 鉄道で移動後、駅を降り、声をかけてきた男に仲介されたタクシーに乗ろうとした際に大人数に囲まれ、気がつくやベルトにつけていたポーチからデジタルカメラが抜き取られていた。	人ごみの中では普段以上に所持品に注意を払うこと。ウェストポーチ等には小型の南京錠やトラベルロックをつけることが望ましい。
8/29 午後 4時	ダレサラム	ダラダラの窓側に座っており、受信したメールを見ようと首からぶら下げていた携帯電話を取り出したところ、車外にいた男が開いている窓から手を伸ばし携帯電話を掴み引っ張られた。取られないように抵抗したがストラップが切れ携帯を奪われた。	人ごみやダラダラ内では携帯電話や貴重品を他の人に見られないようにする。首からかける携帯ストラップは紛失防止にはなるが、携帯電話の存在を周囲に知らせる結果にもなるので、携帯はバッグの奥にしまう方が望ましい。
9/18 午後 1時	ダレサラム	ダラダラで移動中にズボンの前ポケットに入れていた携帯電話を掏られた。気がついたときには犯人は外に出ておりバスが発車した後であった。	ダラダラ内では携帯電話等の貴重品に細心の注意を払うと共に、バッグに入れるなどして抜き取られないように注意すること。



協力隊関連「協力隊視察の旅」

村上ボランティア調整員

協力隊員のご家族や知人が隊員の任地を訪問し、活動を視察する「協力隊視察の旅」が本年も 8 月 25 日(木)～9 月 3 日(土)の日程で実施され、8 名の参加者がタンザニアを訪問されました。ご高齢の参加者もおられましたが、長旅の疲れも全く見られず、皆さん元気に隊員との久しぶりの再会を果たされました。参加者は JICA 事務所および日本大使館を表敬訪問された後、約 1 週間の自由行動となりましたが、隊員の任地はもちろん、サファリやザンジバルに行かれた方も多く、タンザニアを満喫されたようです。帰国前日の懇親会では、皆さんにタンザニアでの思い出を語っていただきましたが、想像の中でしかなかったアフリカでの生活、そして隊員の活動を実際に目の当たりにされたことで、安心して日本に帰れるという感想を持たれた方が多かったのが印象的でした。タンザニアで体験されたことを日本の周りの皆さんに伝えて欲しい、という木野本次長の言葉で懇親会は閉めくられましたが、この視察の旅を通して日本とタンザニアの友好の輪が少しでも広がれば嬉しいですね。来年もたくさんの参加者がタンザニアを訪問されることを期待しています。

JICA 関係者カリブ・クワヘリ

今月は人事異動が多い月となりました。

Kwa heri

木野本次長(2005.9.26 離任)のコメントは追って掲載します。

山内企画調査員(期間:2002.11～2005.9, JICA 事務所、貧困モニタリング企画調査員)

2 年 10 ヶ月余りお世話になりました。タンザニアでの仕事は毎日毎日変化があり、本当にみっちり詰まっています、この生活から離れるなんて信じられません。ここでの仕事が如何に毎日充実していて、チャレンジングだったのかきっと日本に着いてやっと実感するのでしょうか。ここまで来れたのも公私ともに支えてくれた皆様のお陰と、心より感謝しています。本当に今までありがとうございました。



「カリブ・クワヘリ記念写真」

Karibu

高橋次長(2005.9.16 着任、JICA 事務所、木野本次長後任)

はじめまして。

9 月 16 日に着任した高橋直樹です。これまで、民間企業の工場で 4 年勤務した後、JICA に転職して、九州、東京、ケニア、札幌と 2 - 4 年周期で転勤を重ね、タンザニアへ着任しました。木野本次長の後任として、業務を引き継ぎます。すでにタンザニアで業務をされている皆様は、私の諸先輩と心掛け、公私問わず経験を教えていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。タンザニアでは財政支援、援助協調、在外主管など、これまでのパモジャにも度々掲載されるホットな話題も多く、過去の事業実績を踏まえつつも新しい課題が目の前に迫っています。専門家、協力隊共々、事務所職員が一丸となり、それぞれの課題に対して、お互いのコミュニケーション、情報を共有化することで、大きな組織力となると信じています。私自身、アフリカでの勤務は 2 回目で、前はケニアで 1998 年から 2001 年まで 3 年 3 ヶ月勤務しました。今回もケニア同様、家族随伴で赴任しました。妻と 2 人の娘(中 1 と小 5)と一緒にです。職場、週末、学校行事などで、人脈を広げることが楽しみです。

木野本氏の「後任」として、諸先輩から「公認」次長となれる「目」(jicho とは、スワヒリ語で「目」の意味です)を持てるように努力します。



自宅は前任である木野本宅を家財ごと、引き継ぎました。

皆様の職場を訪問したり、事務所、あるいは自宅で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

安居企画調査員(2005.9.16 着任、JICA 事務所、貧困モニタリング企画調査員、山内さん後任)

こんにちは。山内企画調査員の後任として、9月16日に着任致しました「安居」です。2年9ヶ月ぶりのタンザニアではありますが、何となく長期の休暇からひょっこり帰って来たような、そんな不思議な気分に入っている今日この頃。これも、きっとタンザニアの人々が持っている「親しみやすい雰囲気」からなのでしょう。今回は妻(隆子)に加え、長男・孝祐(たかひろ・2歳8ヶ月)と次男・知哉(ともや・6ヶ月)を引き連れての赴任となり、以前とはまた違った楽しみ(苦労?)を味わえるのではないかと、今からわくわくしております。まだまだ不案内のことも多々あるかと思いますが、家族ともども、どうぞ宜しくお願い致します。

甲賀所員(2005.9.18 着任、JICA 事務所松下所員後任)

はじめまして！旧森林課時代に、仕事の早さ・正確さで伝説となった松下さんの後任になるのはプレッシャーですが、ポレポレ、キドゴの精神でがんばります。なお、二ヶ月先に着任した「らっきょ」頭のO職員にキャラが被るといわれ複雑な心境なのですが、「シロイルカ」(現チュニジア事務所長命名)似のほうが小生です。見分ける場合のご参考になさって下さい(笑)

4) 特集： 2005 年度新規採用職員海外 OJT

川村所員、有光所員

前回のパモジャでお知らせしたように、新規採用職員(つまり今年の4月にJICAに採用されたばかり)の有光さんが当事務所に9月6日に着任しました。これから8ヶ月間弱、研修の一環として専門家や隊員の方々の現場にお邪魔することもあるかと思いますが、よろしくお願ひします。以下は有光職員からの自己紹介です。



「Munishiさんと」

はじめまして、JICA 新人の有光佐知子(ありみつ さちこ)です。この度なにかの縁で(新人の在外研修先の希望国申請は一切ありません!)タンザニア事務所、そしてタンザニア国内様々な地域で来年4月末までの8ヶ月弱お世話になることになりました。希望国を申請するチャンスはなかったのですが、心の中では東南部アフリカ地域を熱望していましたので、タンザニアに来ることができてとても喜んでます。

これまでのアフリカ大陸経験は、小学2年生時にジンバブエに3ヶ月、大学4年次(昨年)に南アフリカケープタウンに6ヶ月おりました。初めての東部アフリカ!少しでもスワヒリ語力を上達させてたくさんの人とコミュニケーションしようと張り切っているのですが、思うようにはなかなか上達していません…。しかし!志を高く持ち、日々のトレーニングに励んでいる最中です。

タンザニアでの研修中にはこのパモジャをはじめ、様々なところで様々な方々にお世話になると思いますが、その際はどうぞよろしくお願ひいたします。研修中はまず総務・広報関係を中心に川村さんより指導を頂き、11月の半ばからは守屋さんのもとと保健セクターのお手伝いをさせていただく予定です。

事務所では所長室の手前、総務・研修班で所長の秘書業務も行うMunishiさんの向かい、加藤さん(研修事業担当)の隣に座っています。

事務所内で、道端で、見かけたときはどうぞ声をかけてください!



パモジャでは引き続き皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。特に特集ページでは援助分野に関係なく、タンザニアのさまざまな分野における一般的な概要をご紹介できればと思っています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエスト、投稿など、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

なお、パモジャ(Pamoja)とはスワヒリ語で「一緒に(together)」という意味です。

Email address: Kawamura.Yasuyo@jica.go.jp, Arimitsu.Sachiko@jica.go.jp



